

FUJIEDA ROTARY CLUB

藤枝ロータリークラブ会報

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
URL <http://www.fujieda-rotary.org/> E-mail club1972@fujieda-rotary.org

会長：石垣 善康 副会長：青島 彰 幹事：酒向 謙次 副幹事：大塚 博巳

第1890回

<ソング> それでこそロータリー
<ソングリーダー> 大塚 高弘君



【2010-2011年度 RIテーマ】

地域を育み
大陸をつなぐ

レイ・クリンギンズミス



【シクラメン】

写真提供：事務局

■ 会長報告

石垣 善康君

先週の例会は、会員増強委員会の充実した卓話でした。久しぶりに、テーブル毎の話し合いの時間も持て、先輩の話も聞く事ができました。その後の各テーブル毎の発表も大変参考になりました。有り難うございます。

ここ数年、会員が増え少しのんびりしていたと改めて反省いたしました。先週の発表にもありましたが、候補者がいましたら、ぜひ情報を私なり、また増強委員にお知らせください。発表の中で、どのような人がロータリアンとして適格か、どのような人を勧誘したら良いかとの、話がありました。今まで、じっくりと考えた事も無く、何となくこの人だったらーとお誘いしていたわけですが、改めて考えてみました。

<わかりやすいロータリー>の冒頭に

ロータリーとは＝簡単に言えば、自分を磨き、人を育て、時には慈善行為、ボランティア活動を行う世界的な団体。と記載されています。この定義から考えますと、ほとんどの人が当てはまる訳です。又、自分を磨きーという言葉の通り、入ってからロータリアンとしての素養を磨き、作り上げていくという事だと解釈いたしました。ぜひ、周囲を改めて、見直し会員のご紹介をお願いいたします。

今年度もあと4ヶ月余りとなり、毎日のように次年度にかかわるスケジュール、RI会長テーマなどがメール連絡があります。既に、一部では次年度がスタートしている感もありますが、次年度の事は青島副会長にお任せし、まだある4ヶ月を

精一杯努めさせていただきます。各委員長様、リーダー、そして会員の皆様には、ご無理のない、又ご負担にならない程度でのご協力をお願いいたします。

■ 臨時理事会報告

酒向 謙次君

- ガバナーノミニの件
当クラブ会員の江崎友次郎さんに 2013-2014 年度のガバナー依頼がありましたが、高齢であること、健康面を鑑みると、大変名誉なことではありますが、理事会にてご辞退することと決定しました。
- 藤枝RC40周年記念事業について実行委員会メンバーが承認されました。
- 次年度 米山記念奨学生 世話クラブの件
当クラブが引き受けることが承認され、カウンセラーに、石垣善康会長が決定しました。
- 当クラブ事務員は、2011.2 - 6月まで2名体制で行うことが承認されました。

■ 幹事報告

酒向 謙次君

- (財)ロータリー米山記念奨学会より「ハイライトよねやま132号」届いております。
- ガバナー事務所より、「次年度・米山記念奨学生世話クラブ」お引き受けのお願いが届いております。当地区での奨学生合格者は静岡産業大学情報学部の4年生でバングラデシュの留学生「ダス プロタープ」さんです。
- RI2650地区ガバナーエレクト事務所より、第3回日台ロータリー親善会議のご案内が再度届いております。

- ガバナー事務所より、第 2620 地区パストガバナー「中村孝次郎」様ご逝去のお知らせが届いております。
- ラグーザロータリークラブより、記念事業のご案内が届いております。

■ 出席報告

竹田 勲君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
29 / 42 69.04%	32 / 42 76.19%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

- 江崎晴君 ○栗原君 ○島村君 ○杉浦君
○鈴木廣君 ○平君 ○竹田君 ○仲田晃君
○畑君 ○萩田君 板倉君 鈴木舜君 水野君
(2)メイクアップ者

池谷 佳典君(焼津南) 杉山 静一君(焼津南)

■ ビジター

- 澤脇 圭司君(島田) 渡邊 直樹君(島田)
酒井 俊介君(島田) 丸尾 氣窮雄君(島田)
池谷 哲治君(島田) 小原 昇君(焼津)
山中 一成君(焼津) 古桑 幸郎君(焼津南)
曾根 勝美君(焼津南) 村松 正一君(焼津南)
佐久間 三男君(焼津南) 山田 寿久君(藤枝南)

■ スマイル BOX

竹田 勲君

- 先日は家内の誕生日にお祝いを頂戴し、有難うございました。いただいたフォトフレームに家族旅行の写真を入れて飾っております。

酒井 康行君

スマイル累計額 509,000円

■ 新会員卓話

酒井 康行君



1. 薬はどのように生まれてきたの？

～薬の歴史～

《くすりの起源は》

■薬の歴史は『人類の歴史』と共に歩んできました。

た。一万数千年前の縄文人たちの住居のあとからも、薬として使ったと見られる植物(薬草)が多数発見されています。



■むかしの人は木や草花、虫、鉱物など、自然にあるものを薬として使っていました。どんなものがどんな病気に効くのか、いろいろと試しながら発見してきた、私たち人類の知恵なのです。



《日本人とくすり》

■平安時代

都には東西二つの市があり、東市に薬を商う「薬塵(やくてん)」がありました。取り扱われた薬は、国産の薬草類の他、宋やインドから輸入されたものもあったようです。薬を使えるのは上流階級だけでした。

■室町時代

庶民救済を目的とした「和剤局方(わざいきょくほう)」が中国から伝来しました。とても実用的で、専門知識がなくても活用できたため、人々にもてはやされたそうです。その影響で薬は安価に量産できるようになり、民間薬が多く現れました。

■安土桃山時代

外傷を対象とする「南蛮外科」がキリスト教とともに伝来しました。切り傷の治療法は、蒸留酒で傷口を洗い、ヤシ(椰子)油を塗り、縫合した後、再び蒸留酒で洗い、卵白をヤシ油で練った軟膏を塗った包帯をするというものでした。

■江戸時代

各地で売薬業が盛んになり、医者は薬種問屋から生薬を買って、たくさん引き出しのついた百味箆(ひやくみだんす)に保管し、患者さんの症状にあわせて調合していました。慢性肝炎の治療薬である小柴胡湯(しょうさいこうとう)や、風邪薬として知られる葛根湯(かっこんとう)など、現代でも漢方薬と呼ばれる薬が数多く処方されました。

《近代のくすり作り》

■有効成分の発見と分離

近代の薬の多くは、植物、動物、鉱物などに含まれる有効成分を抽出し、化学的に変化を加えたり、化学合成することによって現在まで創り続けられてきました。

●ケシの実からモルヒネ

1804年ドイツの薬剤師 F.W. セルチュルナーが、阿片から有効成分を取り出すことに成功しました。この有効成分は、眠りの女神モルフィウスの名にちなんでモルヒネと名付けられました。



ケシの実

●ヤナギの樹皮からアスピリン

1763年、イギリスの神父 E.ストーンは、ヤナギの樹皮の抽出エキスが、悪寒、発熱などに強い効果があることを発見し、ヤナギの学名サリユックに因みサリシンと名付けました。1838年にはサリシンからサリチル酸が得られることが判明しましたが、胃腸障害の副作用がありました。



ヤナギ

ドイツの化学者 F.ホフマンは、リウマチを患う父をサリチル酸の副作用から救うべく開発に没頭し、1897年に副作用の少ないアセチルサリチル酸（アスピリン）を合成するのに成功しました。

《明治期の日本人研究者》

■明治期にあたる19世紀末から20世紀初頭は、ヨーロッパでパスツールやコッホによる細菌学がはじまり、化学・医学・薬学の世界が大きく変化する時期で、日本人研究者も数多く活躍していました。

北里柴三郎

日本の細菌学の父。1890年に破傷風免疫体を発見し破傷風の血清療法を開発。1894年にはペスト菌を発見。



北里柴三郎

高峰譲吉

1894年、麴から消化剤であるタカジアスターゼを開発。1900年に世界で初めてホルモン物質であるアドレナリンの抽出に成功。



高峰譲吉

野口英世

1911年に梅毒スピロヘータの培養に成功。1918年に黄熱病と思われる病原体を発見し、「野口ワクチン」を開発。



野口英世

鈴木梅太郎

1910年に米ぬかに含まれる糖からビタミンBの抽出に成功し、「オリザニン」と命名。当時流行していた脚気の治療に大きく貢献。



鈴木梅太郎

《日本の製薬事業の始まり》

■明治時代初期の日本には、まだ合成薬を創る技術がなく、輸入薬に頼っていました。しかし、輸入薬の中には粗悪品も多かった為、明治政府は1874年に、日本初の国立医薬品試験機関である司薬場（しやくじょう）を設置しました。

■1877年には、西日本でコレラが大流行し、輸入品であった消毒薬のフェノールが極端に不足するという問題が起こりました。そこで政府は司薬場に製造研究を行わせ、国産のフェノールの製造に成功しました。

■この経験をもとに医薬品の国産化を目指し、1883年に日本初の製薬会社が官民共同で設立されました。その後、製薬会社が各地で設立されましたが、国産の薬は豊富な実績をもつ輸入薬に対して、事業としてはあまり振るいませんでした。

■しかし、1914年に第一次世界大戦が始まると薬の輸入が困難になり、国産の薬の必要性が高まったことで、薬の研究と製造が本格化されました。その後も日本の製薬事業はめざましい発展を遂げてきましたが、その礎を築いたのは明治時代

の研究者達の活躍によるものなのです。

2. 薬はどのように作られるの？

～薬の開発～

3. 薬にはどんな種類があるの？

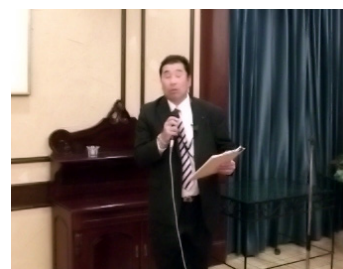
～有効成分と薬の形～

4. 薬はどのようにして効くの？

～体の中での動きと効果・副作用～

本日よりご紹介した内容の多くは弊社のホームページでさらに詳しくご覧いただけますのでよろしければご利用下さい。

<http://www.chugai-pharm.co.jp/hc/ss/index.html>



会員増強・維持 第3グループ討議メモ

1. 現会員のお子様に新会員になっていただく

現在、親子で会員となって頂いている方がいらっしゃるが、このようなケースを増やすことができれば会員増加に繋がるのではないかと。但し、これを促進する為には、例えば会費の割引など、親子で会員となる場合の特典も考える必要があると思われる。

2. 新会員候補者のリストを作成し、定期的に維持更新して情報を共有化する

新会員候補者のリスト（名簿）を作成し、どのような方々が候補者として考えられるかを会員間で共有すれば、会員増加の意識高揚ならびに勧誘機会の増大に繋がるのではないかと。名簿は年度初めなど定期的に更新するのが望ましい。以前は定期的に名簿を作成していたとのことであり、この活動を復活してはどうか。具体的には、青年会議所や商工会議所青年部の方々などが候補者の一例と考えられる。

2/9 酒井 康行

(担当／大塚高君)